

日本赤十字社 東北ブロック血液センター

Japanese Red Cross Society Tohoku Block Blood Center



東北861万人※¹の安心・安全のために。

日本赤十字社では、需要に見合った輸血用血液の確保及び血漿分画製剤の国内自給に向けた原料血漿の確保を始め、医療機関の要請により的確に対応するための体制整備を目的として、全国7ブロック単位（北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中四国・九州）での広域事業運営体制としています。

東北ブロック血液センターでは、東北6県（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）で献血いただいた、年間約34万人の血液の検査、製剤、保管・分配を行っています。

これからも患者さんに安全な血液製剤を安定的にお届けできるように努めて参ります。

血液のゆくえ

献血

東北6県の献血ルームや献血バス等で献血いただいた血液は、東北ブロック血液センターへ集められます。



検査

製剤

保管



東北ブロック血液センターで行っている業務

供給

各県の医療機関からの要請に応じ、24時間365日体制で輸血用血液製剤をお届けしています。



輸血用血液製剤

国内製薬企業

武田薬品工業株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
KMバイオロジクス株式会社

※国内製薬企業に送付した原料血漿から血漿分画製剤という医薬品が造られます。

血漿分画製剤

医療機関（患者さんのもとへ）

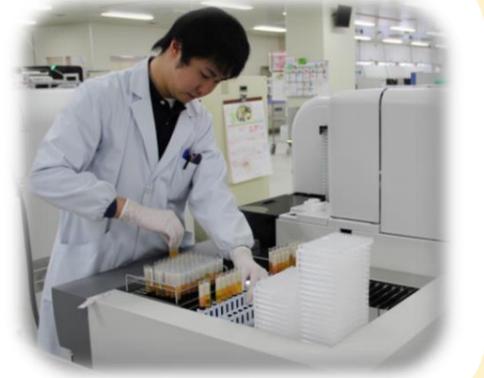


検査

私たちが見ているのは検体のその先、輸血を受ける患者さんの笑顔

安全な輸血用血液製剤を医療機関へ供給するために、血液型検査及び感染症関連検査を実施しています。また、献血者の皆様の健康管理に役立てていただくため、生化学検査及び血球計数検査を行い、結果を希望者へお伝えしています。

このほか、より安全な輸血を行うために、東北6県の医療機関からの依頼を受け、患者さんのHLA（ヒト白血球抗原）型などの血液型関連検査への協力も行っています。



製剤

この血液の重さは、献血してくれた皆様の思い、輸血を待っている患者さんの思い

現在の輸血医療は必要な血液成分（赤血球、血漿及び血小板）のみを輸血する成分輸血が主流のため、東北6県で献血いただいた血液を、成分ごとに分けて調製します。調製後は、検査結果と照合し、すべての検査項目に合格した血液のみが輸血用血液製剤と血漿分画製剤の原料となります。

調製の過程において、輸血に伴う発熱などの副作用を防止するため白血球の除去や、輸血後GVHD※²予防のためのX線の照射を行っています。



保管・分配

安心・安全な輸血用血液製剤を安定的に東北6県へ

輸血用血液製剤を血液型別、種類別に適切な管理の下で保管し、東北6県の血液センター間で在庫の過不足の調整を行い、各県赤十字血液センターに分配します。また、県の枠を越えて広域的な管理を行うことにより、患者さんが必要とする輸血用血液製剤を安定的に供給できる体制を整えています。



※² 輸血後GVHD（Graft Versus Host Disease：移植片対宿主病）

輸血した血液中のリンパ球（移植片）が患者さん（宿主）の細胞を「異物」として攻撃する、致死率の高い病気です。